

令和 8 年度 第 1 回 士別市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：令和 8(2026)年 6 月 26 日（金） 午前 10 時 00 分～午前 10 時 55 分

場所：士別市役所 2 階 会議室 201～203

出席者：別紙のとおり（事務局全員出席）

1. 開会

- ・午前 10 時 00 分、事務局により開会を宣言。協議会規約第 7 条に基づき、法邑副市長が会長に就任していることを報告。

2. 会長挨拶（法邑 和浩 会長）

- ・委員への日頃の協力に対する謝辞。
- ・本日の議題（令和 7 年度事業報告・決算、令和 8 年度事業計画・予算案等）の提示。
- ・特に「習い事応援タクシー事業」について、実証実験を経て今年度から本格運行へ移行すること、国の補助金を活用し持続可能な財源確保を図る方針であることを説明。

3. 委員紹介・協議会の概要

- ・資料 2 ページに基づき委員構成を確認。
- ・資料 3 ページに基づき、本協議会の設置根拠（活性化再生法・道路運送法）および「次世代モビリティ推進会議」等の専門部会の役割について事務局より説明。

4. 役員の指名

- ・会長より以下の通り指名し、承認された。
- ・副会長：朝日地区自治会連絡協議会 川村委員
- ・監査員：士別市社会福祉協議会 鴻野委員、士別商工会議所 久守委員

5. 報告事項

(1) 令和7年度事業報告および決算報告（議案4～10ページ）

- ・事務局より以下の通り報告。
- ・バス無料デー：9月19、20日に実施。延べ614人が利用。
- ・土別まちデータラボ：土別翔雲高校生と協力し、GTFS-JP形式のオープンデータ基盤を作成。
- ・習い事応援タクシー実証実験：延べ利用人数1,413人。運営の複雑化や財源確保の観点から、国の「地域公共交通確保維持事業」の採択を見据えた方針へ転換。4～6月を最終実証期間とし、7月から本格運行へ移行。
- ・小中学生バス半額助成事業：利用者が固定化し新規掘り起こしが困難であること、バスダイヤと習い事の時間の不一致等の課題があるため、令和7年度末で廃止。今後はタクシー事業等との最適化を図る。
- ・決算：収入・支出ともに約1,100万円。予算額との乖離は、習い事応援タクシーに関わる国補助金および精算のための市からの借入金によるもの。次年度繰越金は453,490円。

(2) 令和7年度会計監査報告（議案11ページ）

- ・鴻野監査員より、6月9日に実施した監査の結果、適正であると認められた旨の報告があった。

(3) 土別軌道の運賃改定に関する届出書類の記載誤りについて（議案12ページ）

- ・事務局より報告。令和7年10月の運賃改定時、4区間の届出運賃と実際の運賃に差異があった。実際の徴収額や委託料精算は正しい金額で行われており、利用者や公金支出への影響はない。北海道運輸局と協議の上、書類の差し替えを行う。
- ・土別軌道の大内委員より、事務的な不手際について謝罪があった。

6. 協議事項

(1) 令和8年度事業計画（案）および予算（案）（議案13～14ページ）

- ・事務局より説明。ノーカーデー等の利用促進策、次世代モビリティ推進会議での調査研究、地域公共交通計画のPDCA管理を行う。予算総額は755,000円。
- ・審議結果：質疑なし、承認。

(2) 習い事応援タクシー事業に関する認定申請（議案 15 ページ、当日資料）

(3) 士別市地域公共交通計画の改定計画（議案 15 ページ、別添資料）

- ・事務局より説明。国の補助金活用のため「地域内フィーダー系統」としての認定申請を行う。
- ・これに伴い、士別市地域公共交通計画に本事業を明確に位置づける改定を行う。

【質疑応答】

- ・鴻野委員：国の補助金（フィーダー系統）は、今年度以降も継続して確保できる見通しか。
- ⇒中野渡委員：毎年申請が必要。継続して補助対象となることをお約束するものではなく、（当該年度の）予算の状況にもよるが、実績に基づき適切に手続きを行えば、基本的には継続可能な制度である。
- ・西川委員：「習い事応援タクシー」は習い事に通う子のみが対象となる。これでは、習い事に通わせる世帯への支援に偏り、不公平感を生むのではないか。保護者からもそのような懸念を聞いている。こういった支援のあり方について、事業の検証の対象としてほしい。
- ⇒事務局：実証実験では「本事業があるから習い事を始められた」という利用者の声もある。一方、不公平感の部分に関して調査を明確に行ってきたことから、今後検証について検討していきたい。
- ⇒西川委員：検証について、公共交通の側面であれば総合政策課が引き続き事業の検証を行っていくものかと思うが、事業主体は教育委員会であると聞いている。保護者の立場からすると教育支援というように見えているが、移動支援の公共交通という部分だけの検証には違和感がある。検証には教育委員会など子育て世帯と直接関わりのあるところの検証の仕組みを入れたほうがいいのではないかと要望する。
- ・審議結果：異議なし、承認。

(4) 士別ハイヤーの福祉タクシー導入に関わる事業計画（議案 16～17 ページ）

- ・事務局より説明。バリアフリー車両 1 台を導入（計 5 台体制へ）。総事業費約 237 万円のうち、国の補助金約 60 万円を活用する。
- ・審議結果：質疑なし、承認。

7. その他

- ・特になし

8. 閉会

- ・午前 10 時 55 分、閉会